

○事業所名	アイビーキッズ布田			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 4日 ～ 2026年 1月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38人	(回答者数)	32人
○従業者評価実施期間	2025年 1月 21日 ～ 2026年 2月 1日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	密な園連携・就学移行支援と丁寧なフィードバック	保育園や幼稚園への訪問を複数名で可能な限り実施し、園での様子把握や担当保育士等との細かい情報共有を行っています。保護者様へもその内容をフィードバックし、大変高い評価をいただいています。 就学支援シートの作成や就学を見据えた集団療育を実施しています。また、新1年生（卒業生）の保護者様との交流会や通級指導教室を利用されている保護者様の講話機会を設けるなど、就学移行期の不安軽減に向けた情報提供を行っています。毎回の療育後に約10分間のフィードバック時間を設け、その日の様子や発達課題について保護者様との丁寧な対話と共通理解の形成を図っています。	就学支援シート作成後の小学校や関係機関との連携をさらに深め、よりスムーズな就学・移行支援の体制を整えてまいります。
2	全家庭参加の避難訓練・安全点検と個別ニーズに応じた療育環境	災害時の避難訓練を全家庭（通所時）と実施しており、非常時対応について保護者様全員から「はい」の回答を得られるなど高い安心感につながっています。 毎週1回の遊具点検や安全計画に基づく点検、日常の丁寧な清掃を徹底しています。 お子様の状態や必要性に応じて相談室等を個別の療育スペースとして活用するなど、臨機応変な環境設定を行っています。	定期的な安全点検や訓練の継続とともに、お様が個別に集中・安心できるスペースの活用方法を工夫してまいります。
3	得意分野を活かしたプログラム立案と日々のチーム連携	各指導員の得意なことを活かした多彩なプログラムを取り入れ、活動が固定化・マンネリ化しないよう工夫しています。 集団療育前の打合せや終礼時の振り返り、記録による共有を通じ、チーム全体でお子様の状況把握と支援の検証を行っています。	指導員間での情報共有の質をさらに高め、個々の課題に合わせた質の高い直接支援に還元してまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育スペースの有効活用と混雑時の配慮・人員配置の柔軟性	室内のスペース制限がある中で、時間帯や利用児童数によっては手狭さや活動範囲の制約が生じる場面がありました。	部屋のパーティション等の区切り方や遊具の組み合わせ・時間配分を工夫し、限られたスペースでも各お様が伸び伸びと安全に活動できるよう工夫を重ねます。
2	定期的な広報・情報発信（通信・SNS等）の強化	毎月の予定表にお知らせ欄を掲載して案内を行っているものの、HPや通信・SNS等を活用した定期的な活動概要や自己評価結果などの情報発信について十分とは言えませんでした。	事業所運営の透明性を高め、保護者様や地域への適切な情報提供を行うため、お知らせ欄の拡充や情報発信方法の拡充・見直しを検討いたします。
3	同世代保護者同士やご兄弟姉妹が交流できる機会の創出	新1年生保護者交流会等は大変好評を得たものの、日常的に通所されている同世代の保護者様同士の横の繋がりが（保護者会・座談会）や、ご兄弟姉妹が参加できるイベント等の実施機会がまだ十分ではありませんでした。	保護者様が悩みや子育ての情報を共有できる定期的な保護者会・座談会の開催や、ご家族・ご兄弟姉妹で参加できるイベント等の企画・実施を順次進めてまいります。